

令和7年度 熊本市の幼小中連携及び小中一貫教育の推進・充実について

1 目的

各中学校区の課題を解決すること

- (1) こどもの状況を共有しながら、つながりのある教育を組織的に行うことで、幼児期から児童期の学びの連続性を保障すること。
- (2) こどもが多様な教職員、幼児・児童・生徒と関わる機会を増やすことで、小学校入学や中学校進学に対する不安感を軽減すること
- (3) 中学生が小学生との触れ合いを通じ、上級生である自らに自覚的となることで自尊感情を高め、生徒の暴力行為や不登校、いじめの解消につなげていくこと
- (4) 発達段階に応じた教育の違いを教職員同士が認めた上で互いに学び合い、幼児期から義務教育9年間でこどもを育てる発想を持つよう、教職員に対し促すことにより、つながりのある教育を実現すること 等

2 取組の方向

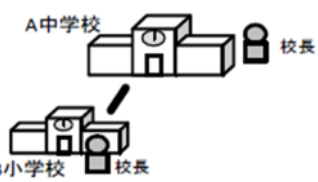
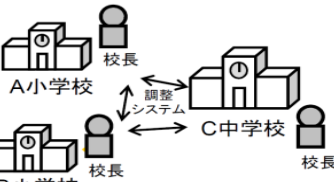
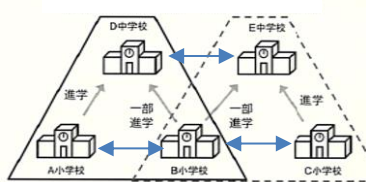
これまでの連携教育の取組の蓄積をもとに、現在の中学校区を基盤にして、小中一貫教育の推進・充実及び幼小中連携を充実できる体制を整えていく。

3 期待されるメリット

- (1) いわゆる「中1ギャップ」の緩和・小学生の中学校進学に対する不安感の軽減
- (2) 教育課程の編成・実施による指導の一貫性の確保
- (3) 小中学校間の教職員の意識改革
- (4) 学力向上・学習意欲の向上
- (5) 良好な人間関係の構築・不登校児童生徒の減少
- (6) 小規模校の弊害の解消 など

4 各中学校区の分類

＜熊本市の全中学校区の分類＞ 【青字は小中一貫校】

	Aグループ（小1中1）	Bグループ（小複数1）	Cグループ（小複数複数）
組織・形態			
中学校数	5	17	20
小学校数	5	42	45
幼稚園	1	3	2
学校数合計	11	62	67
中央区	江南	江原	出水、白川、藤園、出水南、京陵、桜山、西山、竜南、帯山
東区	二岡	長嶺	湖東、東野、錦ヶ丘、東部、西原、桜木、東町
西区	河内、芳野	花陵、三和、城西	井芹
南区	富含	天明、城南、飽田、力合、日吉、下城南	託麻
北区		楠、龍田、武蔵、鹿南、五霊、植木北	清水、北部

5 各グループの主な取組

		小中一貫教育及び小中連携教育の主な取組	A	B	C
一貫	①	中学校卒業時点での「目指す子ども像」を共有	○	○	○
	②	9年間を通した小中一貫教育目標の設定	○	○	—
	③	9年間の小中一貫カリキュラムの編成・実施	○	○	—
	④	小学校高学年の一部教科担任制の継続(交換授業の推進)	○	○	○
	⑤	小中学校間での乗り入れ授業	○	△	—
	⑥	小中合同行事の開催(例:運動会、文化発表会など)	○	△	—
連携	⑦	学習や生活のルールを小中学校間で共有し共通実践(連携カリキュラム)	○	○	○
	⑧	小中学校間で児童生徒の情報を共有し、児童生徒支援に活用	○	○	○
	⑨	小中学校が合同で学力テスト等の分析を行い、結果を授業づくりに活用	○	○	○

※ ○：中学校区の実態に応じた取組必須，△：中学校区の実態に応じて取組可，—：取組は厳しい

6 各グループの今後の方針

グループ	今後の方針
Aグループ (小1中1)	①各中学校区の実態に応じた9年間を見通した小中一貫教育目標の設定及び小中一貫カリキュラムの確認・実施・修正・改善。
Bグループ (小複中1)	
Cグループ (小複中複)	①幼小中連携のさらなる充実。(小中一貫教育のよさを参考に) ②各中学校区の実態に応じた幼小中連携カリキュラムの確認・実施・修正・改善。

7 A・Bグループの小中一貫校への移行

グループ	年度	R3	R4	R5	R6	R7
Aグループ (小1中1)		小中一貫校(富合・芳野・河内・江南・二岡)				
Bグループ (小複中1)		モデル校	小中一貫校(江原)			
			小中一貫校(天明)			
		モデル校		小中一貫校(植木北)		
		タブレット端末活用モデル校		小中一貫校(楠)		
			モデル校 (下益城城南・城南・五霊・鹿南)	小中一貫校(下益城城南・城南・五霊・鹿南)		
				モデル校 (花陵・城西・飽田・力合・日吉)	小中一貫校(花陵・城西・飽田・力合・日吉)	
					モデル校 (三和・武蔵・長嶺・龍田)	小中一貫校

※ 校区は中学校区で記載